

第19回会津若松市環境大賞受賞者(令和2年度)

受賞名	区分	個人／団体／事業所名	功 績 内 容	
環境大賞	団体	堤町西区町内会	<p><功績></p> <p>◆4～11月の毎月第3日曜日の朝に、町内一斉清掃を実施、加えて年3～4回、約200mの中央遊歩道や約300m続くグリーンベルトの除草を実施している。一斉清掃は、住民にとって、長年の習慣になっているため、回覧板による周知や開始前の集合等は行わず、外国人も含め大多数の会員が参加し、率先して生活環境の維持・美化に努めている。また、欠席者の賦課金はあえて導入せず、会員の自主性と協調性を大切にしながら、継続している。</p> <p>◆毎月1回、リサイクル活動を実施しており、賛同する個人宅5か所を集積場所とし、多くの会員の協力の下、古紙回収を継続している。</p> <p>◆町内3か所に点在する広い緑地は、地域住民や保育園児の遊園場所として親しまれていることから、居合・鶴賀9号緑地緑化愛護会を立ち上げ、年3回、緑地の清掃を行っている。</p> <p>◆40年以上の長きにわたり、住民が共同で地域振興に努めてきた土台が、結集・結束力を培い、全く途切れることなく、毎月という高い頻度で環境保全活動を継承している。</p> <p><選考結果></p> <p>永年にわたり、地域住民が協力し、美化・リサイクル活動に取り組む姿勢は他の模範であり、本市の環境意識の高揚と環境保全の推進に大きく貢献している。特に、毎月の清掃活動では、国籍に関わらず大多数の町内会員が参加しており、活動頻度はもとより、会員の自主性と協調性を尊重する取組は高く評価できる。また、これまで培ってきた地域性を活かし、将来的な活動の発展が大いに期待される。</p>	
エネルギー部門	—	該当なし	—	
環境賞	リサイクル部門	個人	橋本 五十雄	<p><功績></p> <p>◆5年前から生ごみの減量化と堆肥化に取り組み、現在は、家庭から出る生ごみは汁物も含め全て、コンポストにより堆肥化し、浄化槽の水質向上につなげている。</p> <p>コンポストに生ごみを入れる際や新たな堆肥を作る際には、発酵が促進されるよう、こまめな土の管理や設置場所の定期的な移動など、工夫を凝らし、腐敗しない良好な堆肥づくりを継続している。</p> <p>◆作られた堆肥は、自宅裏の畑の肥料とし、ジャガイモやトウモロコシ、また、堆肥から自然発生したカボチャも育て、収穫している。</p> <p>◆町内の集会時等には、コンポストの使用方法や補助金制度について普及啓発しながら、市の不法投棄監視員としても活動し、町内ひいては市全体のごみの減量に取り組んでいる。</p> <p><選考結果></p> <p>ごみの減量化に対する意識が高く、コンポストの活用と普及啓発を自主的・積極的に行う姿は、他の模範であり、周囲の環境意識の高揚に寄与することから、評価に値する。個人の活動ではあるが、今後、このような資源の循環と有効活用への取組が各家庭や地域に広がれば、市の環境保全推進の一助になるものと期待される。</p>
	美化部門	個人	菊地 賢一	<p><功績></p> <p>◆城西地区環境美化推進協議会において、会計補佐を担当し、毎月の清掃活動の運営役も担っている。また、環境美化は、子どもの頃からの習慣が大切との考えから、城西小学校との合同清掃作業では、積極的に児童とコミュニケーションを取りながら、真剣に環境保全の大切さを伝えている。</p> <p>◆リサイクル回収推進会において、毎月2～3回のリサイクル活動に加え、自宅での回収・保管を行い、リサイクルの推進に積極的に取り組んでいる。</p> <p>◆西若松駅を愛する会において、年2回、駅前花壇の植栽活動に参加し、植栽前の耕うん作業を担うなど、自ら進んで花壇の整備を行っている。</p> <p>◆生活環境保全推進員として、週3～4回、城西地区のパトロールを行い、ゴミや犬ふんを回収するなど、環境保全に努めている。</p> <p>◆4つの団体を兼務し、さらに、自主的に歩道の除草を実施するなど、地区の環境保全活動の中心を担う存在として、他の模範となっている。</p> <p><選考結果></p> <p>永年にわたり、地域の環境美化活動を自主的、献身的に取り組む姿は、他の模範であり、評価に値する。また、環境保全に対する意識が高く、複数の団体に活動するなど、その幅広い取組は、団体のメンバーや共に活動する子どもたち、さらには地域住民の環境美化に対する意識の高揚に大きく貢献するものである。</p>

		団体	表町一区町内会	<p><功績></p> <p>◆平成 25 年に町内会の委員会の一つとして、花壇環境美化委員会を立ち上げ、天神橋から下流へ向かう湯川沿道約 300 m に設置されている 5 か所の花壇の整備を行っている。</p> <p>◆4～11 月の毎月 2 回程度、花苗の植栽や散水、除草作業等を実施しており、耕うんや川沿いの除草作業は、機器を所有する町内会員が行うなど、多くの会員が協力し、美化活動を継続している。花苗は、市の花苗生産基地の活動のほか、会員が積極的に持ち寄り、現在では、40～50 種類もの植物が四季折々の花を咲かせ、通りを行く人々の目を楽しませている。</p> <p>◆委員会の構成員には、町内会役員や新旧組長、希望者の参加を規約に盛り込み、役員が代替わりしてもスムーズに運営できる体制づくりをしている。また、活動に対する意見やアイデア、会員同士のコミュニケーションの場として、年 2 回お茶会を開催し、会の親睦と活性化につなげている。</p> <p><選考結果></p> <p>地域住民が互いに協力しながら、美化活動に取り組む姿勢は、他の模範であり、評価に値する。特に、活動の継続と定着を図るための体制づくりや会員が積極的に花苗を持ち寄るなどの創意工夫による取組は、本市全体の環境美化の意識高揚に寄与するものである。</p>
環境教育部門	—	—	該当なし	—
自然環境部門	—	—	該当なし	—